

## 大学公認オリジナルグッズ

### 4月から販売開始

本学では、21世紀ビジョン「社会知性の開発」を念頭においた学校法人専修大学のシンボルマーク、ならびにマスコットのデザインを制定し、併せて大学全体のマーク類を統一してPR活動を行っている。

そのデザインを基にした大学公認のオリジナルグッズの本格的な販売を4月から開始する。

昨年11月のホームカミングデー(卒業生の集い)で、大学名のロゴとシンボルマークが入った帽子、フェイスタオル、マグカップなどを販売したところ、「どこで買えるのか」「他の商品は」といった反響が多かったため、生

田キャンパス内に専大グッズコーナーを設置することとなった。今後、神田キャンパスでの販売やホームページなどを活用し販売網を広げるとともに、在学生や卒業生のニーズを参考に、愛校心と誇りを持ってもらえる専大グッズの作製にも取り組む予定でいる。

■購入のお問い合わせ: 購買会 電話 044(911)1097



(1)帽子 (2)クラッチバッグ (3)マグカップ (4)Tシャツ。「専修大学」の文字は、文化功労者で世界的な書家・手島右卿元文学部教授の書 (5)ノート (6)ボールペン、シャープペンシル (7)定規 (8)「センディ」ステッカー (9)「センディ」ストラップ (10)ネクタイ (11)クリアファイル (12)ネックストラップ (13)タオル

## 経営学部渥美ゼミ

# 「はこだて未来大学」と携帯電話用旅行ナビ「さあちず！」を共同開発

「モバイル情報通信システムとその応用」を研究テーマとする渥美幸雄ゼミナール(経営学部)は、昨年5月から約半年間かけて、公立はこだて未来大学システム情報科学部の高橋修教授、新美礼彦講師の研究室と共同で、携帯電話のナビゲーションを応用した旅行者向けソフトウェア「さあちず！」を開発。12月19日に生田キャンパスで合同の完成発表会を開いた。



▲携帯電話の画面に表示された「さあちず！」



▲成果を発表する3年次の山口礼雅さん(右端)と清島垂紀さん(中央)

渥美ゼミが、「旅」についてのマーケティング調査やサービス内容とビジネスモデルの提案を行い、未来大学側が携帯電話会社各社の特性を生かしたソフトの開発を担当した。

携帯電話のGPS(全地球測位システム)機能を活用した「旅の新しい楽しさを旅行者に提供」する旅行者支援ソフト「さあちず！」は、訪れた地域を白地図上にマーキングできる「白地図描画」、思い出をメモとして地図上に残せる「置手紙」、旅行先の写真などを地図上に隠し発掘させる「宝探し」として公開できるほか、利用者同士が口コミ情報の輪を広げることも可能。「置手紙」機能を観光案内や店舗情報に応用することで、ガイドブックがなくても旅行やショッピングができ、企業から広告収入を得るビジネスモデルも考案した。川崎市経済局にも出向いて、参考意見をうかがった。

このプロジェクトは、通信関連の企業で同僚だった渥美教授と高橋教授が「文系・理系の枠を超え、新たなものを生み出したい」と試みたもの。2回の合同合宿のほかは、インターネットを用いた毎週のテレビ会議とメールで連絡を取り合った。実施に当たっては、日本ヒューレット・パカード、日本情報通信コンサルティング、KDDI、NTTDoCoMo北海道、SoftBank、WILLCOMの6社の協力支援を得ている。

渥美教授は「企業に入れば、文系出身者と理系出身者が合同でプロジェクトを組むのは当たり前のこと。それぞれの得意分野を生かした共同作業で、『モノ』を作りだした今回のプロセスは、学生にとって大きな財産になる」と成果を話している。

## 学内外から教材ダウンロード、レポート提出「eラーニングシステム」推進

### eキャンパス構想の一環

「学生を基本に据えた大学づくり」を目指す本学では、ITを利用して学生支援・サービスを充実させる「eキャンパス」構想を推進している。

その一環として、「授業支援基盤システムRENANDI(レナディ)」を導入し、昨年9月から利用を開始した。このシステムは、学生のさまざまな学習を支援する「eラーニングシステム」で、授業出欠、教材配布、レポート提出などの機能を持ち、学生が自宅や1700台の学内設置パソコンにより操作を行う。



(出典: 日本ユニシス)

主な特長は次のとおり。

- 学生は使い慣れたウェブの画面で教材のダウンロードやレポート提出を行うことができる。
- SSL(秘匿通信システム)を利用して学内外から安全にフレキシブルな利用が可能。
- 複数のパソコンから瞬時同時アクセス500に対応する強固なインフラ設定。



同システムの11月1日現在の利用状況は、登録科目数6500、ユーザー2万人、データ登録32万件であり、大学に導入されたeラーニングシステムとしては全国で最大の規模を誇る。

なお、IT技術を活用し、教育・研究並びに大学運営に関して、総合的かつ戦略的な施策の策定・実施を進めている「eキャンパス推進委員会」では、今後も学生の学習環境の向上に向けてさまざまな改善に取り組む予定でいる。